

2020年5月13日(水)

老球の細道543号

日本バスケットボールのルール変遷史⑥〈2000年代〉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

バスケットボールというスポーツは「スピード」が魅力であるために、ゲーム内容のスピード化を狙うため数多くのルール改正が行われてきた。2000年代最も大きな影響を与えた改正は「24秒ルール」であろう。それまでは30秒ルールのオフェンスだったので、「速攻がだめならセットオフェンスで攻め直し」のコンセプトで行ってきた。例えば、速攻がだめならフレックスオフェンスで、オープンができるまで何度もボールを回す。このパターンだと24秒オーバータイムが頻発したので、私は「アーリーオフェンス」(速攻がセットオフェンスになるような戦術)を使用することが多くなった。

今後さらに時間の短縮とともにプレイがシンプルになり、より精度の高さが求められるよう進化していこう。バスケットボールの進化はウイルスの進化になんか負けない。

【2001年の主な変更点】(2000年27回シドニー五輪)

- ゲームは20分ハーフから10分(中学は7分)のピリオド4回に変更された。
- チームファールの制限回数は各ピリオド4回に変更された。
- タイムアウトは第1ピリオドから第3ピリオドまでは各ピリオドに1回、第4ピリオドには2回認められ、必ず1分間を使うことになった(それまでは1分以内であれば自由)。
- 30秒ルールは24秒ルールに、10秒ルールが8秒ルールにそれぞれ変更になった。
- プレイヤーのテクニカルファールの罰則は「2個のフリースロー」から「1個のフリースローとボール保持」に変更された。
- 3人の審判制を採用してもよいことになった。

【2004年の主な変更点】(2004年28回アテネ五輪)

○ジャンプボールを行わず、両チームが交互にスローインしてゲームを展開する「オルタネイティング・ポゼッションルール」が採用され、ジャンプボールは第1、第3ピリオドと延長時間を始める時にだけ行われるようになった。ヘルドボールもそのルールによりスローインでゲームを再開する。

【2005年の主な変更点】

- 第3ピリオドの始まりも「オルタネイティング・ポゼッション・ルール」によるスローインで始められることになった。
- プレイヤーのテクニカルファールの罰則が「2個のフリースローとボール保持」に変更。
- バイオレーションの後、どちらのチームにも交代やタイムアウトが認められる。
- ゲーム中のチーム・ベンチから立ち続けられるのはコーチだけになった。
- ボールをバックボードに投げて他のプレイヤーが触れないうちにそのボールに触れることは、それがショットでない限りドリブルとみなされる(「コピー・プレイ」)。